

平成22年度事業報告

(1) 学術集会および会務

A) 学術集会

1. 第58回総会（平成22年6月2日～4日）
会場：長崎ブリックホール
会長：河野 茂（長崎大学医学部第二内科）
2. 第57回東日本支部総会（平成22年10月21日～22日）
会場：京王プラザホテル
会長：二木芳人（昭和大学医学部臨床感染症学）
3. 第58回西日本支部総会（平成22年11月25日～26日）
会場：大分全日空ホテル オアシスタワー
会長：門田淳一（大分大学医学部総合内科学第二講座）
4. 本年関連国際学会として
第12回西太平洋化学療法・感染症学会
（平成22年12月2日～5日・シンガポール）

B) 会務

1. 年度末正会員数 5,993名
年度末賛助会員数 29団体、団体会員数 203団体
2. 平成22年度評議員会、同定期総会は上述の第58回総会時に開催された。
3. 新評議員（平成22年5月～平成23年5月）
東日本支部5名（現在228名）
大曲 貴夫（静岡がんセンター感染症内科）
國島 広之（東北大学大学院感染症診療地域連携講座）
長野 則之（船橋市立医療センター微生物検査室）
沼崎 啓（国際医療福祉大学病院小児科・感染制御部）
長谷川直樹（慶応義塾大学医学部 感染制御センター）

西日本支部4名（現在209名）
藤田 次郎（琉球大学大学院医学研究科感染症・呼吸器・消化器内科学）
迎 寛（産業医科大学呼吸器内科学）
泉川 公一（長崎大学医学部第二内科）
黒川 一郎（明和病院皮膚科）

4. 理事会8回開催

平成22年4月、6月（2回）、7月、9月、10月、11月、平成23年2月

C) 事業報告

1. 編集委員会

1) 日本化学療法学会雑誌（委員長 堀 誠治、7月より清田 浩）

- ・編集委員会 6回開催

- ・編集状況

平成22年 第58巻

一般誌 6冊（掲載論文数20編）

新薬特集号 2冊（掲載論文数14編）

平成23年 第59巻

一般誌 3冊（掲載論文数18編）

新薬特集号 1冊（掲載論文数6編）

その他編集中 1冊

2) Journal of Infection and Chemotherapy（委員長 小林芳夫）

- ・編集委員会 11回開催

- ・編集状況

平成22年

Vol. 16 No. 1～6（掲載論文数 83編）

平成23年

Vol. 17 No. 1～2（掲載論文数 45編）

Online First 89編

- ・平成23年1月より電子投稿・査読システムを導入した

- ・JIC Award受賞

松本浩一（佐賀大学）

「Clinical features of *Vibrio vulnificus* infections in the coastal areas of the Ariake Sea, Japan」(Vol.16 No.4 p.272-279)

3) 用語委員会（委員長 清田 浩）

抗菌化学療法用語集の改訂作業を行い、ホームページにオンライン用語集として掲載をした。

4) 電子情報配信誌編集委員会（主幹 満田年宏）

日本化学療法学会電子情報配信誌「JSC-WIRE」を毎月発行した。

2. 学術委員会（委員長 塚本泰司）

- ・認定学術集会 申請26件 認定26件（平成21年度 申請17件、認定17件）

- ・学術奨励賞受賞者

第58回総会

金子 幸弘（国立感染症研究所生物活性物質部）

「*Candida albicans* の biofilm に対する抗真菌薬の拮抗作用に関連した Hsp90 関連ストレス応答に関する検討」

高橋 佳子（兵庫医科大学病院感染制御部）

「Linezolid による血小板減少発現のリスク因子」

Journal of Infection and Chemotherapy

岩島 康仁（名古屋市立大学大学院医学研究科腫瘍・免疫内科学）

「A retrospective study of the epidemiology of *Clostridium difficile* infection at a University Hospital in Japan: genotypic features of the isolates and clinical characteristics of the patients

3. 会則検討委員会（委員長 鈴木賢二）

公益社団法人移行認定申請を行うに当たり現行の各種規定を検討した。

4. 学会賞選考委員会（委員長 公文裕巳）

志賀潔・秦佐八郎記念賞の候補者について検討し選考を行った。

受賞者：山口恵三（東邦大学医学部微生物・感染症学講座）

研究テーマ：「臨床微生物学トランスレーショナルリサーチの推進と確立に向けた基盤研究」

5. 国際渉外委員会（委員長 松本哲朗）

1) 第 12 回西太平洋化学療法学会が平成 22 年 12 月にシンガポールで開催され、JSC-Sponsored symposium 「Legionella diseases: New Insights for 30 Years after Discovery」を行った。

2) 第 28 回国際開学療法学会が、2013 年（平成 25 年）6 月に横浜で開催されること、正式に決定した。会長は、松本哲朗と決定した。

3) 第 6 回日本・台湾感染症シンポジウムを平成 22 年 6 月に台北で開催した。

6. 未承認薬検討委員会（委員長 三鴨廣繁）

1) 注射用コリスチンの使用実態調査を実施した。

2) ICDの所属している施設1,888箇所を高用量ピペラシリン注射薬の必要性に関してアンケート調査を行った。

3) ICDの所属している施設1,888箇所を高用量メロペネム注射薬の必要性に関してアンケート調査を行った。

7. 抗菌薬安全性評価基準検討委員会（委員長 渡辺 彰）

「抗微生物薬安全性評価基準検討委員会 最終報告」を日本化学療法学会雑誌ならびに Journal of Infection and Chemotherapy に和文・英文にて公表し、あわせて第 58 回 日本化学療法学会総会（長崎）で発表した。

8. 抗菌薬感受性試験微量液体希釈法検討委員会（委員長 山口恵三）

日本化学療法学会雑誌 59 巻 2 号（平成 23 年 3 月発行）に委員会報告として「インフルエンザ桿菌に対する微量液体希釈法培地の問題点 – 日本化学療法学会馬容血液添加培地と CLSI 法 HTM 培地の比較 –」を掲載した。

9. 抗菌薬臨床試験指導医・指導者制度委員会（委員長 三鴨廣繁）

1) 指導者制度講習会開催（年3回：39、40回、41回）

第58回日本化学療法学会総会：平成22年6月4日（長崎）

第57回東日本支部総会：平成22年10月22日（東京）

第58回西日本支部総会：平成22年11月25日（大分）

2) 抗菌薬臨床試験指導医・指導者および認定医、認定者の新規申請および認定作業を行った。

新規認定：指導医5名、認定医1名

更新認定：指導医8名 指導者1名

10. 抗菌薬化学療法認定医認定制度審議委員会（委員長 三笠桂一）

・抗菌薬適正使用生涯教育セミナー開催

第13回 平成22年6月2日 長崎ブリックホテル

第14回 平成22年8月29日 東京国際フォーラム

第16回 平成22年10月17日 京王プラザホテル

第17回 平成22年11月26日 東洋ホテル

・抗菌薬適正使用生涯教育ビデオセミナー

東京（第15回）平成22年10月17日 日内会館

神戸 平成22年11月7日 神戸大学医学部大講義室

福岡 平成23年1月30日 九州大学医学部百年記念講堂

札幌 平成23年2月13日 札幌医科大学記念ホール

・委員会を数回開催

・指導医・認定医・認定歯科医の認定申請受付

・認定者 指導医：53名 認定医：220名 認定歯科医師：18名

11. 抗菌薬化学療法認定薬剤師制度委員会（委員長 竹末芳生）

・認定薬剤師講習会の開催

第3回 平成22年6月25日 札幌サンプラザ

第4回 平成22年10月23日 幕張メッセ

・認定薬剤師テキストを発行した。

・認定薬剤師試験実施

問題を作成し、試験問題作成ワーキングでブラッシュアップを行った。

試験は平成23年2月6日に東京慈恵会医科大学中央講堂で行い、申請者91名のうち74名が合格した。合格者は3月1日付けで認定薬剤師として認定された。

12. 三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス委員会（実務委員長 渡辺 彰）

1. 第1回（2009年）サーベイランス

1) 呼吸器感染症（26施設 684株収集）

Journal of Infection and Chemotherapy(JIC) に投稿準備中。

2) 急性単純性膀胱炎、尿道炎（淋菌、クラミジア）

（1）急性単純性膀胱炎

43 施設より 460 検体を収集し、感受性を測定中。

(*E. coli* 348 株, *S. saprophyticus* 20 株)

(2) 尿道炎 (淋菌、クラミジア)

N. gonorrhoeae は 84 株収集し、感受性を測定中。

C. trachomatis は現在 21 株 (目標 30 株) で菌株収集中。

2. 第 2 回 (2010 年) サーベイランス

1) 呼吸器感染症

46 施設より 1,002 株を収集し、感受性測定を終了した。現在解析中。

S. aureus 208 株、*S. pyogenes* 4 株、*S. pneumoniae* 205 株、

H. influenzae 199 株、*M. Catarrhalis* 74 株、*K. pneumoniae* 148 株、

P. aeruginosa 164 株

2) 手術部位感染 (SSI)

27 施設が参加し、現在 320 株を収集。引き続き収集中。

3. 第 3 回 (2011 年) サーベイランス

耳鼻咽喉科領域感染症と複雑性尿路感染症の 2 領域を対象に実施する。

1) 耳鼻咽喉科領域感染症

急性及び慢性の中耳炎、急性及び慢性の鼻副鼻腔炎、急性扁桃炎、扁桃周囲膿瘍を対象に主な原因菌 1,000 株を目標に収集する。11 月 16 日に参加施設への説明会を開催した。

2) 複雑性尿路感染症

2008 年に実施し、今回 2 回目。前回実施要綱の変更として対象菌種に MRSA、*K. oxytoca* を追加、調査薬剤に TEIC、ABK、STFX、Pivmecillinam、Nitrofurantoin を追加して実施する。

13. UTI薬効評価基準見直しのための委員会 (委員長 松本哲朗)

「尿路性器感染症に関する臨床試験実施のためのガイドライン」を英文化し、JIC に投稿した。

14. 嫌気性菌感染症治療のガイドライン改訂委員会 (委員長 三嶋廣繁)

「嫌気性菌感染症治療のガイドライン」の英訳版を JIC に投稿した。

15. レジオネラ治療薬評価検討委員会 (委員長 渡辺 彰)

1) 第 2 回症例検討会を実施

2) パンフレットの改訂とホームページ掲載の実施要綱、参加会社等の変更

3) 集計用のデータ入力 (外注)

4) アジア地域におけるレジオネラ症の疫学・診断および抗菌薬療法に関する共同プロジェクトのワーキンググループを立ち上げ、6 月末に中国での第 1 回ワークショップを開催した。

16. 呼吸器感染症における新規抗微生物薬の臨床評価法見直しのための委員会 (委員長 河野 茂)

全体会議

平成 22 年 4 月 5 日 第 10 回委員会開催 (京都)

平成 22 年 6 月 4 日 第 11 回委員会開催（長崎）
平成 22 年 9 月 17 日 第 12 回委員会開催（東京）
平成 22 年 11 月 26 日 第 13 回委員会開催（大分）

ワーキング

平成 22 年 5 月 13 日
平成 22 年 8 月 19 日
平成 22 年 11 月 12 日

肺炎に関しては、第 58 回日本化学療法学会総会で報告し、パブコメを募集した後若干の改訂を加えた。慢性気道感染症に関しては、概略がほぼまとまった。

17. **コリスチンの適正使用に関するガイドライン作成委員会（委員長 二木芳人）**
コリスチンの適正使用に関するガイドラインの執筆者を決め原稿の執筆依頼を行った。
18. **抗MRSA薬適正使用委員会（市販後調査）（委員長 草地信也）**
アンケート結果を厚生労働省に報告書を提出し、日本化学療法学会雑誌 59 巻 2 号に掲載した。
19. **感染症治療ガイド作成委員会（委員長 青木信樹）**
日本感染症学会と合同で日本独自のポケットガイド「JAID/JSC 感染症治療ガイド 2010（案）」を作成した。
20. **抗菌薬TDMガイドライン作成委員会（委員長 竹末芳生）**
日本 TDM 学会と合同で「抗菌薬 TDM ガイドライン」を作成することになり、当学会の委員を選定し、ガイドラインの企画、概要について検討した
21. **社会保険委員会（委員長 河合 伸）**
体外診断用医薬品の保険申請および肺炎球菌検査について検討した。
22. **新公益法人検討委員会（委員長 戸塚恭一）**
公益社団法人の移行認定申請を行い認定された。
23. **インフェクションコントロールドクター (ICD)制度**
平成 22 年 12 月 認定者 56 名（申請者 56 名）

平成23年度事業計画

(1) 学術集会および会務

A) 学術集会

1. 第59回総会（平成23年6月23日～25日）
会場：札幌コンベンションセンター
会長：塚本泰司（札幌医科大学医学部泌尿器科）
2. 第58回東日本支部総会（平成23年10月26日～28日）
会場：ホテルメトロポリタン山形、山形テルサ ほか
会長：平潟洋一（東北大学大学院臨床微生物解析治療学）
3. 第59回西日本支部総会（平成23年11月24日～26日）
会場：奈良県新公会堂
会長：喜多英二（奈良県立医科大学細菌学講座）
4. 本年関連国際学会として
第27回国際化学療法学会
（平成23年5月7日～10日・ミラノ）

B) 会務

1. 理事会、評議員会の開催について
理事会年7回、評議員会年1回を予定
2. 関連団体への対応
日本医学会に評議員及び医学用語委員会委員を、日本医師会に疑義解釈委員会委員を、
内科系学会社会保険連合にそれぞれの委員を派遣する。

C) 事業計画

1. 編集委員会

- 1) 日本化学療法学会雑誌
 - ・6冊発行予定
 - ・新薬特集号を1冊発行予定
 - ・編集委員会を隔月開催する
 - ・学会ホームページをリニューアルする
- 2) Journal of Infection and Chemotherapy
 - ・編集委員会を隔月開催とする
 - ・6冊発刊予定
 - ・JIC賞の選考を行う
- 3) 用語委員会
抗菌化学療法オンライン用語集に適宜、用語の追加・修正を行う
- 4) 電子情報配信誌編集委員会
日本化学療法学会電子情報配信誌「JSC-WIRE」を月1回配信する。

2. 学術委員会

認定学術集会の認定および学術奨励賞を選考する。
海外留学補助制度の選考を行う。

3. 会則検討委員会

規程の変更があれば適宜、対応していく予定である。

4. 学会賞選考委員会

志賀潔・秦佐八郎記念賞の選考を行う。

5. 国際渉外委員会

- 1) 第27回国際化学療法学会が、ヨーロッパ臨床微生物学会（ECCMID）と合同で、平成23年5月にミラノで開催され、日本からの多数の参加を促すこととする。
- 2) 国際化学療法学会のWGとして、「Device-related infection and Biofilm」を形成し、神谷茂教授（杏林大）をChairmanとした。第1回国際シンポジウムを平成23年10月、北九州市で開催することとする。
- 3) 第6回日本・台湾感染症シンポジウムを、上記の同様に、平成23年10月、北九州市で開催することとする。
- 4) 第8回11回ISAAR（International Symposium on Antimicrobial Agents and Resistance）が平成23年4月にソウルで開催され、協力することになった。
- 5) 第1回SICCMAC（Shanghai International Congress of Clinical Microbiology and Antimicrobial Chemotherapy）が、平成23年9月に上海で開催され、協力することとする。

6. 未承認薬検討委員会

- 1) 注射用コリスチン適正使用の指針を作成する。
- 2) 高用量シプロフロキサシンの臨床試験に関する助言および指導を行う。
- 3) 高用量メロペネム注射薬適正使用の指針を作成する。
- 4) 注射用メトロニダゾール適正使用の指針を作成する。
- 5) ICDの所属している施設1,888箇所を高用量スルバクタム・アンピシリンナトリウム注射剤の必要性に関してアンケート調査を行う。
- 6) 高用量クラリスロマイシンの必要性について検討する。

7. 抗菌薬感受性試験微量液体希釈法検討委員会

・日本化学療法学会微量液体希釈法改訂の英文化を行い、JICへ投稿した。

8. 抗菌薬臨床試験指導医・指導者制度委員会

- 1) 指導者制度講習会開催予定（年3回：42、43回、44回）
第59回日本化学療法学会総会：2011年6月25日（札幌）
第58回東日本支部総会：2011年10月26～28日（山形）
第59回西日本支部総会：2011年11月24～26日（奈良）
- 2) 新規申請、更新申請を受け付ける
- 3) 8月末までに新規申請者の試験を実施する

9. 抗菌化学療法認定医認定制度審議委員会

- ・抗菌薬適正使用生涯教育セミナー開催予定
 - 第18回 平成23年6月23日 札幌コンベンションセンター
 - 第19回 平成23年9月3日 東京国際フォーラム
 - 第20回 平成23年10月26日 山形テルサ
 - 第21回 平成23年11月24日 奈良県新公会堂
- ・委員会を数回開催予定
- ・1日コースのビデオを作製し教育資料として販売する
- ・9月末 指導医・認定医・認定歯科医の認定申請締め切り、指導医認定試験願書締め切り
- ・12月 指導医認定試験実施および認定のための作業委員会
- ・平成24年1月1日付けで認定

10. 抗菌化学療法認定薬剤師制度委員会

- 1) 認定薬剤師講習会の開催
 - ・第5回 平成23年6月17日 広島国際会議場
 - ・第6回 平成23年9月30日 神戸国際会議場
- 2) 認定薬剤師試験実施
認定薬剤師申請者の試験を行い、認定する。

11. 三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス委員会

- 1) 第1回（2009年）サーベイランス
 - ・急性単純性膀胱炎・尿道炎
感受性測定結果を参加医療機関に報告。
成績を関連学会で発表し、JICに論文を投稿する。
- 2) 2回（2010年）サーベイランス
 - ・呼吸器感染症
感受性測定結果を参加医療機関に報告。
成績をICC（2011年）及び関連学会で発表し、JICに論文を投稿する。
 - ・手術部位感染（SSI）
感受性を測定し測定結果を参加医療機関に報告。
成績をICAAC（2011年）及び関連学会で発表し、JICに論文を投稿する。
- 3) 3回（2011年）サーベイランスの実施
耳鼻咽喉科領域感染症、複雑性尿路感染症の2領域を対象に原因菌を収集し、2012年3月までに成績をまとめる。
- 4) 第4回（2012年）サーベイランスの実施準備
呼吸器感染症と急性単純性膀胱炎・尿道炎（淋菌、クラミジア）の2領域を対象に実施する計画で実施要綱を9月までに作成する。

12. UTI薬効評価基準見直しのための委員会

- 「尿路性器感染症に関する臨床試験実施のためのガイドライン」がJICに掲載される予定である。

13. 抗真菌薬臨床評価委員会

指針をホームページに掲載し、会員からパブリックコメントを求めて機構に提出する予定である。

14. 嫌気性菌感染症治療のガイドライン改訂委員会

- 1) JIC Vol. 17 Supplement 1 に英訳版の「嫌気性菌感染症診断・治療のガイドライン」を掲載する予定である。
- 2) 2007年版のガイドライン改訂作業を進める予定である。

15. レジオネラ治療薬評価検討委員会

- 1) 収集した菌株等の各種抗菌薬の抗菌活性を測定。
- 2) レジオネラ症の診断法などに関する教育・啓発資料を作成する。
- 3) アジア地域におけるレジオネラ症の疫学・診断および抗菌薬療法に関する第2回ワークショップ開催を予定。
- 4) レジオネラ症例検討成績を学会誌に投稿する。
- 5) 調査終了薬剤について日本化学療法学会主導による自主研究形式のシステム作成。
- 6) 委員変更に伴う、パンフレットとホームページの変更を行う。

16. 呼吸器感染症における新規抗微生物薬の臨床評価法見直しのための委員会

- ・ 3～4回の委員会を開催予定である。
- ・ 第59回日本化学療法学会総会（札幌）にて最終報告をする予定である。

17. コリスチンの適正使用に関するガイドライン作成委員会

名称を「ガイドライン」から「適正使用に関する指針」に文言を変更し、この指針をパブリックコメントとしてホームページに掲載し、会員から意見を求めて完成させる予定である。

18. 感染症治療ガイド作成委員会

感染症治療ポケットガイド（案）をホームページに掲載し、会員からパブリックコメントを求め、発行する予定である。

19. 抗MRSA薬適正使用ガイドライン作成委員会

日本感染症学会と合同で「抗MRSA薬適正使用ガイドライン」を作成することになった。

20. 抗菌薬TDMガイドライン作成委員会

日本TDM学会と合同でガイドラインを発行する予定である。

21. 社会保険委員会

要望があれば適宜、対応していく予定である。

22. インфекションコントロールドクター(ICD)制度

申請締切：平成23年10月31日